

平成 17 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 湯川 隆子

最終学歴	1974年3月京都大学大学院教育学術研究科博士課程（教育法法学専攻）単位取得満期退学
取得学位	教育学修士
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本社会心理学会、日本家族心理学会、日本グループダイナミクス学会、SRC(D)(The society for Research of Child Development)、ISSBD(The International Society for the Study of Behavioural Development)
現在の専門分野	発達心理学（生涯発達心理学）・社会心理学
研究課題	ジェンダーの視点から見た生涯発達心理学

【研究上の特記事項】

H15(2003)～17(2005) 年度科学研究費・基盤研究（C）『生涯発達の視点からみたジェンダー：その発達機制の理論化と教育実践』研究代表者

【教育上の特記事項】

【社会的活動】

放送大学面接授業講師（2005年度8月）

【学内活動】（学内職歴を含む）

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) フェミニスト心理学をめざして 2 3 4 5	共著	2006年3月	かもがわ 出版	青野篤子・湯川隆子(編著) 2002年度から2004年度にわたって日本心理学会年次大会にて開催された「日本心理学会・ジェンダー研究会」企画・運営による「フェミニスト心理学研究」シンポジウム記録をもとに、「フェミニスト心理学」の発展をめざしての今後の課題と展望を行った。
(学術論文) 大学生におけるジェンダー認識の変容過程—本学『ジェンダー論』講義の学習効果から— 3 4 5	単著	2006年3月	奈良大学 総合研究所・所報 v o l . 14	本学学生のジェンダーに対する認識の変革を目的とした『ジェンダー論』の講義効果を検討したもの。(18-25P)
(学会発表) ジェンダー認知の変容とその測定 (ポスター発表No. 3PM192) 性差研究の意義と課題—性差は研究に値しないか— (ワークショップ, No. WS32) 3 4 5	共同発表	2006年9月 2006年9月	日本心理学会第69回大会発表論文集 日本心理学会第69回大会発表論文集 (Pp. w16)	ジェンダー認知及びその変容を測定するための測定・指標について検討したもの (石田勢津子との共同発表) ジェンダー研究における「性差研究」の意味と課題についてのワークショップ
(その他) 2 3 4 5				